

# 圃場に機械が入れば これだけ排水できる!?



1日目(9月18日)は熊本県不知火干拓地で現地実演が行なわれた。ここは、10年前の台風被害で塩害が発生し、「熊本方式の除塩」によって復興を遂げてきた地域で海水面より田面が低い。今年の九州地方の雨を象徴する天候の中、前日から排水対策を念入りに施した圃場にトラクタ11台が集結。参加者もセミクローラ、フルクローラ、四輪クローラの各種トラクタへ試乗するなど楽しんだ。



圃場の一角を掘ってみると、水が湧き出てくる。水面は地下30cmほどに。還元状態の土壌断面を観察



「額縁排水」で圃場の四辺に溝を切って水みちを確保し、サブソイラを狭い間隔でかけて表面の水を抜く。



井関農機TJ65+溝切機。掘られた溝に圃場表面の余剰水が溜まっていく様子を一同で覗き込んだ。

初日夕方からはディスカッション&意見交換会で交流を深め、翌19日は講演に続いて午後から大自然ファームを訪れた。若い層の参加も多く見られ、地域を越えた情報交換の場になった。



平成23年度

## 九州沖縄土を考える会 秋期研修会